



いたびつ **板櫃** <校訓>
真理の探究
自主躍進

令和5年9月6日(水)発行

校長 栗原 博 巳

北九州市小倉北区白萩町8番1号

HP: www.kita9.ed.jp/itabitsu-j/



<学校教育目標>

自立・共生～自立心にあふれ、他を思いやる心をもった生徒の育成～

<目指す生徒像>

- ① 「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒(凡事徹底)
- ② 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒(自立)
- ③ 思いやりの心を持ち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒(共生)
- ④ 与えられた仕事に対し、役割を果たすことのできる生徒(責任)

全九州中学校長研究大会(保護者の皆様へ)

昨年の8月、福岡国際会議場で、九州の中学校の校長先生が集まって「第73回 全九州中学校長研究大会」が行われました。その記念講演が教務深い内容でしたので、板櫃中学校の保護者の皆様に紹介します。演題は「不揃いの木を組む～技を伝え、人を育てる～」、講師は鳩工舎(いかるがこうしゃ)の棟梁 小川 三夫(おがわ みつお)氏でした。



記念講演での小川 三夫氏の「ことば」を抜き出しています。私たち教師はもちろん、家庭教育でも「はっ」とさせられる言葉ではないかと思えます。参考にしてください。(棟梁と弟子の世界ですので、厳しい言葉も含まれています) 下線部の言葉は、私が大切だと感じた言葉です。

- 人は育てるのではなくて、自然と育つ。
- 「教わる」という気持ちは甘えにつながる。「学ぶ」気持ちが生まれるまで待つ。
- 遅く、遠回りをする子はこちらで待っていればよい。悩んで悩まず。
- 無駄をさせ、無駄に気付かせ、無駄をなくす。(初めから合理的やり方を教え込まない)
- 先輩が学ぶ雰囲気の中で後輩(弟子)は育つ。⇒「捨て育ち」という言い方をしています。
- 上に立つ人は教えてもらう姿勢をもつことが大切。(弟子から学ぶことが多いそうです)
- (寄宿生活で)いろいろな人と触れ合うからこそ、いろいろなことが分かる。自己中心的な考えでは何も分からない。
- (寄宿生活というものは)優しさと思いやりがなければ、長い間一緒に暮らすことはできない。
木材を運ばせると、力のある先輩は自然と重い側を持つようになる。
- 掃除をさせると、仕事に向かう姿勢が分かる。食事を作らせると、仕事の段取りと仲間への思

いやりが分かる。

- 器用な子は三角定規で10m先の三角を見ようとする。不器用な子は、10mの三角定規を作ろうとする。⇒不器用が悪いのではない。「不器用の一心」
- 四方八方から風を受ける木はまっすぐに育つ。四方八方から人を見る。
- 整理整頓とは、頭の中を整理すること。
- 外で生きていく能力のある子(器用で世渡りが上手い子)は、一つのことに集中できないこともある。
- (弟子は)親方を外から見のではなく、親方の中に入り込む。そうすれば、修業は楽になる。
- 手道具(鋸、カンナ、ノミなど)を十分使いこなせる人は、電動器具を120%使いこなせる。電動工具しか使わない人は、電動工具の80%しか使いこなせていない。
- 目と頭で覚えた知識ではなく、手と体で覚えた知識は「記憶」として残る。ただし、これには時間がかかる。
- 伝統を引き継ぐということは、「嘘、偽りのないもの」を残すということである。
- 何事にも「気付く」人間になれ。気付くようになると、そのあとに「なぜ？」と思うようになる。「なぜ？」と思い始めて、初めて親方は指導してくれる。
- 厳しさのない優しさは甘えにつながる。
- 古代建築は、人間の錯覚を矯正しているから美しい。
- ものごとの始まりは「知恵」、それを言葉にしたものが「知識」。自分のものにするには、「知識」に「知恵」が加わらないとダメ。「知恵」は限りなく湧いてくる。
- 不揃いの木が、寺や塔の美しさを出している。